



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2012.1

No.333

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



県の鳥

石光 章(所沢市)

◇埼玉県民の鳥は**シラコバト**、東京都は**ユリカモメ**…というように、日本の47都道府県はそれぞれシンボルの鳥を選定しています。ただし、法律や条例で規定されたものではありません。一説によると昭和28年(1953年)NHKが音頭をとって全国に「郷土の花」選定運動を展開したのが発端で、やがて木や鳥にまで広がったということです。(ちなみに、埼玉県の花はサクラソウ、木はケヤキです。)

◇県の鳥第1号は富山県の**ライチョウ**です(昭和36年・1961年制定)。立山連峰のライチョウが「神の鳥」と崇められていることから選ばれたようです。ライチョウは同じく日本アルプスを抱えている長野、岐阜両県の鳥でもあります。

このように複数の県で選定されている鳥があるので、県の鳥は47都道府県で36種しかいません。

オシドリも3つの県の鳥になっていますが、ライチョウと違って地域的にはバラけています。北から山形、鳥取、長崎の3県です。3県に顕著な共通性は見当たりませんが、選定理由はオシドリの優しく仲睦まじいというイメージが影響しているようで、それぞれ「美しく平和」(鳥取)で「雌雄仲むつまじい」(山形)姿が「愛情豊かな県民性のシンボル」(長崎)と説明しています。でもオシドリも、本当は繁殖の度に相手を変える浮気者なんですけど…。

◇県の鳥には、さすがに地域性を色濃く表している鳥が目立ちます。北海道…**タンチョウ**、宮城…**ガン**、新潟…**トキ**、佐賀…**カササギ**、鹿児島…**ルリカケス**、沖縄…**ノグチゲラ**等はまさに各地域の代名詞のような鳥。他県ではまず観察出来ないのも、時間とお金のかかる鳥見人泣かせの鳥です。

愛知県は**コノハズク**。いわゆる「声のブッポウソウ」です。昭和10年(1935)年6月、N

HKが南設楽郡鳳来寺村(現・新城市)の鳳来寺山からブッコッコという鳴き声をラジオで生中継したことから、声の主はコノハズクと判り、以来「声のブッポウソウ」「姿のブッポウソウ」と使い分けられるようになった、というのは有名な話ですネ。一時途絶えていた鳳来寺山のコノハズク便りが、幸い最近復活しているようで喜ばしいことです。

京都府は**オオミズナギドリ**です。日本海側の舞鶴市冠島がこの鳥の繁殖地で天然記念物に指定されていることから選定されました。地元での別名はサバ鳥…京都でサバと言えば食通ならずともサバ鮨を連想されるハズ。選定の根拠は実はサバ鮨だった!?

◇「おや?」と思わせる選定をしているのが広島、山口、高知の3県です。

広島県は**アビ**。選定当時(昭和39年、1964年)広島県下の瀬戸内海にはシロエリオオハムを主にアビ科の鳥が毎冬多数渡って来ていました。従って、アビが集団で小魚を追い込むという習性を利用して、人間は小魚目当てに集まった鯛を釣るという世界でも珍しいアビ漁も盛んでした。「県の鳥」選定の際、このアビ漁関係者が大量にハガキを出したので、最後にメジロを抜いて逆転当選した、と地元紙の解説にありました。そのアビの渡来も1980年代に激減し、300年の伝統を誇っていたアビ漁も20数年前途絶えてしまったそうです。

山口県が**ナベヅル**を選定しています。ツルと言えば鹿児島県出水と思いがちですが、山口県周南市八代が本州唯一のナベヅル渡来地であることから選ばれました。数は多くないものの毎冬渡って来ており、市の観光課の話では今年も3羽渡来しているそうです。

高知県は**ヤイロチョウ**。この珍鳥の探鳥地としては宮崎県の御池がよく知られていますが、高知県西部の四万十川源流域で毎夏繁殖しているようです。でも、人里離れた道なき

深山の中とか。地元の人でも見た人はごく少ないと思うのですが、それでも価値を認めて選定しているところがさすがは坂本龍馬の高知県!?

◇鳥好きの興味をそそる(?)のは、宮崎県の**コシジロヤマドリ**。ヤマドリの亜種です。ヤマドリは日本固有種で、秋田、群馬両県の鳥に指定されていますが、最近個体数減少が心配されています。まして亜種コシジロヤマドリともなるともっとレアで、九州南部にしかいない準絶滅危惧種です。そんな鳥を選定した経緯がまた面白い! 《県民の皆さんに、コシジロヤマドリ・アオバト・ヒュウガカケス・シラサギ・メジロの中から「県の鳥」を投票していただいた結果「コシジロヤマドリ」に決まりました。》(宮崎県ホームページ)。選択肢がスゴイでしょ。サギ、メジロはともかくヤマドリ、アオバト、カケスと並べるなんて担当者はかなりの鳥キチですネ!?

◇こういうマニアックな鳥は例外として、県の鳥にはポピュラーな鳥が揃っています。

ウグイス…山梨、福岡、**コマドリ**…奈良、愛媛、**メジロ**…和歌山、大分、**ヒバリ**…茨城、熊本、**キジ**…岩手、岡山等々。

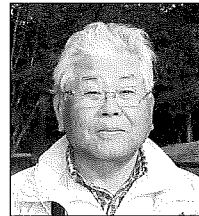
ところが、鳥見人に人気のワシカ類は石川県の**イヌワシ**のみ。白山連峰に棲息するイヌワシを「雄々しい姿と勇猛果敢な性格は、躍進する石川県を象徴」するとして選定していますが、イヌワシは絶滅危惧種。シンボルの鳥が絶滅してしまわないよう、石川県の保護策に期待しましょう。

探鳥会の人気者のカワセミも残念ながら採用されていません。選定当時は高度経済成長期、河川が汚れてカワセミが人前から消えていたからでしょうか。

◇もうひとつ、気になることがありました。ごく身近な鳥たちが選ばれていないのです。スズメ、ツバメがいません。スズメは、害鳥という誤ったイメージが強くて対象にならなかったのかも知れませんが、国鉄の特急の名称にもなり益鳥の代名詞のように親しまれていたツバメがもれています。理由は判りませ

会員の皆様、 新年のご挨拶を申し上げます 日本野鳥の会埼玉 代表 藤掛保司

昨年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災から、10ヵ月になるうとしています。



日本野鳥の会埼玉も、発生から約1ヵ月間は探鳥会を休み、お預かりしている会費の中から義援金を本部へ届けました。「がんばろうふくしまinにしよう」のイベントには、役員、リーダー、会員の皆様方が参加してくださいました。1日でも早い復興と復旧を願っております。

「日本野鳥の会埼玉」の新しい呼称と腕章、ご案内旗にはなじんでいただけたでしょうか。探鳥会、自然観察会、調査活動、小中学校の総合的な学習、公民館、地域の活動等で活躍しています。緊急連絡カードの装着も定着してきました。

今年も年間120回以上の探鳥会を開催したいと考えています。バードウォッチングを楽しみ、健康で安全第一に過ごしたいものです。1人でも多くの会員増加にご協力いただけますように、節にお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

んが、チョット淋しいなと思うのは私だけでしょうか?

◇トリとめもなく、県の鳥を拾い上げてみましたが、紙面の都合で一覧表は割愛しました。興味のある方は、ネットで「県の鳥」を検索すれば簡単にご覧いただけます。

応募の締め切り(1月10日)迫る

「会員'増'大作戦」のご意見を募集しています。詳細は2011年11月号をご覧ください。
(編集部)

中間平タカの渡り

千島康幸(小川町)

寄居町の中間平(ちゅうげんだいら)は、寄居町から南西方向に伸びて釜伏峠・登谷山に至る稜線の中間あたり、標高約 350m付近にあります(北緯 36 度 6 分、東経 139 度 9 分)。

道路脇に展望テラスがあり、北から南西方向の眺望がすばらしい所です。

今年もタカの渡りを観察しましたが、天候不順の影響か 24 日の 1 日だけに集中しました。数は少ないけれど 10 種のタカを見ることができました。白樺峠にも行きましたが、地元で、1羽1羽をじっくり観察し、山を越え海を渡り見知らぬ南国に渡って行くタカの無事を祈りながら見送るのも良いものです。

月日	天候	時間	サシバ	ハチクマ	ツミ	ノスリ	その他のタカ
2009年9月7日	晴	8:00~11:00					オオタカ1、トビ
9月12日	曇	7:40~11:00	2				トビ
9月19日	曇	10:50~14:30	1				ミサゴ1、トビ
9月20日	晴	7:30~15:30	3	7	3		オオタカ3、ミサゴ1、ハヤブサ1、トビ
9月22日	うす曇	8:00~12:00	9	1	5	2	オオタカ1、
9月26日	晴	12:15~15:00				2	オオタカ2
9月27日	曇	8:00~14:30	5			2	
10月1日	曇後晴	8:15~14:00	7		1	2	オオタカ1、ハヤブサ1
10月3日	晴	8:15~11:30		4			オオタカ1、トビ
10月4日	曇時々晴	8:15~16:00	26	1	4		オオタカ7、ハイタカ2、トビ
10月12日	曇	9:35~12:30				8	オオタカ4、ミサゴ1、ハヤブサ1
合計			53	13	13	16	
2010年9月4日	晴	8:30~12:00	1				トビ
9月11日	晴	8:00~16:00	2				オオタカ1、ハイタカ1、
9月17日	晴	11:30~16:00		1			ミサゴ1、トビ
9月19日	晴	8:20~15:00	10				オオタカ1、トビ
9月20日	曇	8:30~15:00	3	1		1	トビ
9月25日	曇後晴	8:00~15:30	53	1	1	1	オオタカ2、ハイタカ1
9月26日	快晴	7:45~16:20	53	7	2	7	ハイタカ1、チゴハヤブサ1、トビ
9月29日	晴	7:25~14:00	38	11		6	ハヤブサ2、トビ
10月2日	晴	7:35~13:00		1	1	3	オオタカ3、トビ
10月3日	晴	7:40~12:20	1	1			ハヤブサ1、ミサゴ1、チゴハヤブサ1
合計			161	23	4	18	
2011年9月10日	快晴	8:00~13:35	1	3			トビ
9月14日	快晴	14:10~16:30					トビ
9月17日	曇時々晴	8:00~12:15					オオタカ1
9月18日	曇後晴	8:00~16:00	5		2		ハイタカ1
9月19日	晴後曇	7:45~15:00	12	2			トビ、チョウゲンボウ1
9月24日	快晴	7:25~16:00	130	10	3		オオタカ3、ミサゴ2
9月25日	曇	7:30~11:20	5	1			オオタカ1、ハイタカ1、
10月2日	曇	7:50~13:00				1	トビ、ミサゴ1
10月8日	快晴	8:00~13:00				1	ハヤブサ1、トビ
合計			153	16	5	2	



野鳥情報

さいたま市見沼区蓮沼 ◇9月19日午前6時頃、センダイムシクイ1羽、シジュウカラ数羽とともに民家のサクラに来る。シジュウカラが去った後も残って、翼の裏を盛んに羽繕い（小林みどり）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇9月20日、モズ♂1羽、梢にとまって高鳴き（小林みどり）。10月2日、公園の池にオナガガモ♀タイプ2羽、繁殖羽に変わりつつある♂1羽。オオタカ1羽、上空を旋回（小林洋一・小林みどり）。

羽生市上新郷 ◇9月15日、休耕田でオオハシシギ夏羽1羽（小林洋一・小林みどり、神奈川支部会員2名）。9月23日、アメリカウズラシギ1羽、ウズラシギと並んで登場。大きさはウズラシギとほぼ同じ、胸から上の斑のある部分と、斑の無い腹部の境界がはっきりしている（小林洋一・小林みどり、神奈川支部会員3名）。

羽生市上新郷 北緯36.1639 東経139.5029
◇9月22日、休耕田でアカエリヒレアシシギ幼鳥14羽の群れ。ケリ1羽、ウズラシギ2羽、アメリカウズラシギ？1羽、アオアシシギ4羽、コアオアシシギ1羽、タシギ5羽、チュウジシギ？1羽、トウネン7羽、ヒバリシギ1羽、イカルチドリ1羽、タカブシギ2羽。台風一過の青空にセッカが鳴いて、ダイサギとショウドウツバメが舞った（長嶋宏之）。

羽生市羽生水郷公園 ◇9月23日、枯れ枝にオオタカ成鳥1羽。遊びに来ていた親子に見せてあげたら親の方が喜んだ。沼杉の天辺でモズが鳴いた。柳の天辺でも鳴いた。数羽いるようだ。カルガモ50羽の群れに8羽のコガモのエクリプスが混じって泳いでいた（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇9月26日、キビタキ♂1羽（小林みどり）。

東松山市岩殿物見山公園 ◇9月27日、ツツドリがサクラの木を枝移り。エナガとシジュウカラの混群が木の間を移動。中に尾羽

の全く無いエナガが1羽。ノスリと思われるタカが遠くで輪をかいていた（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園 ◇9月28日、オオタカが気持ち良さそうに旋回。カシの木の樹冠で3羽のエゾビタキがフライキャッチング。夕方1羽のサシバが屋敷林に。今日はここで泊まりか？ 時に帰る途中のカラスが50羽±、上空を騒がしく飛び交っていた。上沼のアシ原でジシギの声。15分以上続いた（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区染谷 ◇9月28日、草地からいきなりツミ♀1羽が飛び出す。昆虫を獲ろうとしていたらしい（小林みどり）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇9月28日、農耕地上空をオオタカ1羽が舞う。モズ1羽がもう1羽を追い払い、勝利の高鳴き。川の岸辺にゴイサギ若鳥1羽、ダイサギ2羽、チュウサギ8羽、コサギ1羽、アオサギ1羽。七里総合公園内の加田屋川にコガモ♀タイプ4羽（小林みどり）。

さいたま市南区彩湖 ◇10月1日、ヒドリガモ♀タイプ3羽、ウミネコ2羽（小林洋一・小林みどり）。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇10月1日、鹿島古墳公園沿いの河川敷林でムギマキ1羽。目の上後方、外側尾羽基部などに♂（若鳥）の特徴はなかったので♀と思われる。水場近くの枝にとまるのを、やや見下ろす状態で観察した。クサシギ4羽、イソシギ5羽±、カワウ150羽±、サシバ1羽、ノスリ2羽、オオタカ若鳥1羽、ショウドウツバメ40羽±、コサメビタキ1羽。10月8日、オジロトウネン1羽、クサシギ2羽、イソシギ10羽±、イカルチドリ2羽、ノスリ若鳥1羽、ショウドウツバメ30羽±、カケス15羽±、アオゲラ♂1羽。10月16日、クサシギ5羽、イソシギ5羽±、イカルチドリ1羽。10月23日、オジロトウネン2羽、クサシギ2羽、イソシギ5羽±。モズ♂、アマガエルの「はやにえ」をしていた。10月29日、ウズラシギ1羽、キアシシギ1羽、ハマシギ9羽、オジロトウネン1羽、クサシギ1羽、イソシギ5羽±、イカルチドリ3羽、タヒバリ5羽±、ノスリ1羽、ジョウビタキ♂1羽、

アカハラ1羽。オオタカ成鳥、ダイサギらしきを水中に押さえつけていた。コガモなどカモ類100羽十、上空を飛び交うが、そのほとんどが着水しなかった。10月30日、ウズラシギ1羽、ハマシギ7羽、オジロトウネン3羽、クサシギ2羽、イソシギ5羽十、コチドリ2羽、イカルチドリ3羽、オオタカ成鳥1羽、アカゲラ♀1羽、ツグミ2羽、ビンズイ4羽。コハクチョウの飛来が例年より遅れている（鈴木敬）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月4日、高压送電線の鉄塔にオオタカが1羽。周囲を睥睨していた。銀杏の木の天辺でフライキャッチする小鳥が3羽。エゾビタキのようだった。ハクセキレイがトンボを捕まえて、羽を綺麗に落としてから食べていた。10月10日、ハヤブサが屋敷林の上空をゆっくりと旋回。その後、ハトを捕ったところを友人が目撃した。10月19日、エナガ8羽に続いてシジュウカラ3羽が梅林に枝移り。後からコゲラ2羽とヤマガラ1羽も確認した。そこにモズが割り込んで、群れを散らした。10月27日、モズの後をスズメ2羽が鳴きながら飛び、モズを追い払って戻ってきた。スズメに追われたのは若いモズだったのだろうか？（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇10月2日 朝、オオタカ1羽が自宅上空を通過（小林みどり）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇10月6日、川にコガモ30羽十、すべて♀タイプ（小林みどり）。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇10月7日、オオタカ若鳥1羽、チョウゲンボウ1羽、上空を飛ぶ。コサメビタキ3羽十、シジュウカラの小群とともに木の上部を動き回る（小林みどり）。10月9日、キビタキ♂1羽、♀1羽、コサメビタキ1羽、シジュウカラやメジロとともにミズキの木の上部を動き回る。第七調節池の縁でじっと見つめ合うカワセミ2羽（小林洋一・小林みどり）。

戸田市道満グリーンパーク・彩湖 ◇10月8日、道満の池ではカイツブリのみ。岸のクスノキの垂れ下がった枝でコサメビタキ？発見。管理橋を渡ったすぐ右側で常緑樹の

中、桜の大木の横枝でこちらを向いてとまった尾の長い黒い影。胸から腹、下尾筒、尾まで横縞がくつきり。翼が長いのに驚く。ツツドリだ。カメラのないのが残念！ 右岸を北上すると、カルガモたちに混じってエクリプスのコガモ2羽。最後に覗いた釣堀では、耳羽の白さがやけに目立ち、お腹が薄ぼけた黄色に見えるカワセミに出会う（陶山和良）。

羽生市羽生水郷公園 ◇10月12日、ツツドリ1羽。10月14日、コサメビタキ1羽。今季初認（中里裕一）。◇10月20日、マガモ29羽、コガモ7羽、ヒドリガモ3羽。冬鳥の代表格のカモ類が飛来しエクリプスを楽しんだ。モズがあちこちで高鳴き、ヒヨドリが賑やかだった（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区染谷 ◇10月15日、森の奥でカケスの声（小林みどり）。

さいたま市見沼区深作遊水地 ◇10月18日、オオタカ若鳥1羽、カラス（ハシボソかハシブトかは不明）につきまといわれる（小林洋一・小林みどり）。

さいたま市見沼区膝子～緑区上野田 ◇10月18日、ハシボソガラス50羽十の群れの中にミヤマガラス成鳥4羽。今季初認。時々ハシボソガラスに追い払われるが、あまり気にならないのか、すぐに戻ってくる（小林洋一・小林みどり）。

加須市加須はなさき公園 ◇10月19日、ジョウビタキ♀1羽。今季初認（中里裕一）。

蓮田市駒崎の田圃 北緯36.0125 東経139.6226 ◇10月26日、ミヤマガラスの成鳥13羽と幼鳥3羽がハシボソガラス50羽の群れと一緒に採餌していた。群れの中にハシブトガラス3羽も一緒だった（長嶋宏之）。

北本市・北本自然観察公園 ◇10月27日、高雄の池にミコアイサ1羽、♀又は♂のエクリプス（松原卓雄）。

表紙の写真

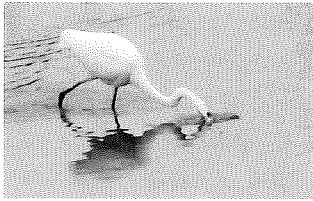
カモ目カモ科オシドリ属オシドリ

仲良く泳いでいた八丁湖（吉見町）のオシドリです。

田島利夫（深谷市）



行事案内



ダイサギ(プリングマン・ウィリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく覗いて、楽しみましょう。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物: 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻: 特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(水)

集合：午前10時、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場 9:27 発浦和学院高校行き、または東浦和駅 9:25 発さいたま東営業所行きで、「さぎ山記念公園」下車。駐車場はありますが、もちろん飲酒運転厳禁です。

担当：海老原、楠見、工藤、宇野澤、小林(み)

見どころ：新年の挨拶を交わして初探鳥会。

昼ごろからはいつもの野外懇親会を予定しています。酒類、食べ物ご持参歓迎。敷物も各自ご用意ください。飲みすぎに注意しながら、楽しい時間を過ごしませんか。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月6日(金)

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き 9:10 発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過。

費用：入園料 400 円(子供 80 円)、65 歳以上 200 円(要年齢を証明できるもの)。

担当：藤掛、大坂、杉原、高橋(優)、中村(豊)、藤澤

見どころ：新春を祝う探鳥会にふさわしく幸せの青い鳥を探しましょう。アフターは昼食をとりながら、鳥談義をしませんか。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月7日(土)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口から、茨城急行バス③番乗り場 8:21 発松伏町役場行きで、「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、田邊、吉岡、榎本(建)、植平、野村(弘)、野村(修)、森下、進士、佐野、佐藤

後援：まつぶし緑の丘公園管理事務所

見どころ：公園の池のカモ、数は多くはないけれど例年7~8種観察できます。近隣の屋敷林や古利根川を巡り、冬の小鳥たちを探します。防寒対策はしっかりと。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：森本、新井(巖)、倉崎、栗原、飛田、千島、鶴飼、岡田

見どころ：寒さ厳しい折ですが、鳥たちはけなげに生きています。その姿から、寒さに負けない元気を貰いましょう。青、赤、黄の鳥のどれかを期待したいところ。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月8日（日）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場8:41発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、藤掛、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀、野口（修）、大井

見どころ：メインはカモやカンムリカイツブリの水鳥たち。秩父の山々をバックに猛禽類も楽しめます。赤い鳥にも出てもらいたいですね。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月9日（月・祝）

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口から、朝日バス③番乗り場8:41発春日部エミナス行きで、「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、吉安、橋口、吉岡（明）、野村（弘）、野村（修）、進士、佐藤

見どころ：昨年はマヒワ、一昨年はアトリ、更にその前はウソと、年によって主役が入れ替わりました。今年はどうな鳥が主役？
ご注意：帰路バス時間は、上記バス停から春日部駅西口行き13:07、14:20発です。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月14日（土）

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：新井（巖）、小池（一）、倉崎、大澤、小淵、鶉飼

見どころ：ここ2年、1月に見られた冬鳥が2月の探鳥会になると減少する傾向が見られました。そこで今回は1月に開催時期を変えました。さて、結果は？

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、新部、渡辺、若林、小菅、赤堀、増田、宇野澤、須崎、船木、島山、柴野

見どころ：例年のように芝川上流、第二産業道路を越えて探鳥します。お目当てはヨシガモ等です。秩父連山の山並みを見ながら楽しい鳥見。少し多く歩きますので寒さ対策と体調を整えてお出かけください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月15日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→栗橋7:56→柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、玉井、田邊、中里、植平、山田（東）、茂木、進士、野口（修）、佐藤、佐野
見どころ：カンムリカイツブリの背泳ぎが見えたらいいですね。カモのメスたちの色合いをじっくり見るのもいいカモ。もちろんシンボルのチュウヒをはじめミサゴ、ハヤブサ、ノスリなどタカの仲間にも期待。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月21日（土）

集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。

交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、朝日バス8:32発菖蒲仲橋行きで、「除堀（よけぼり）」下車、徒歩約15分。バス停からご案内します。

担当：長嶋、内田、大坂、長野、植平、佐野、

佐藤、竹山

見どころ：「野鳥観察はカモの識別から・・・」。
バードウォッチングに興味を持ち始めた方、沢山のカモが図鑑通りの姿や顔でお待ちしています。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月21日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108 号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:39 発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、星、山本（真）、久保田、石光、山口、水谷、間正

見どころ：冬鳥はその年により個体数が大きく変わることがあります。入間川に来るホオジロやツグミの仲間はどうでしょうか。身近な鳥たちを楽しみましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月22日（日）

集合：午前8時40分、JR 宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、田中、赤坂、長野、青木、菱沼（一）、吉安、榎本（建）、長嶋

見どころ：黒浜沼周辺は人家に隣接した場所ですが、変化に富んだ環境があり、意外に多種の鳥が期待できます。珍しい鳥ではない里の鳥を楽しむにはよい場所といえます。それに季節もベストです。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月22日（日）

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。
交通：秩父鉄道熊谷8:00→寄居8:28→長瀨 8:47。または所沢7:28→西部秩父8:50→秩父鉄道御花畑8:59に乗り換え→長瀨9:19。
解散：正午ごろ高砂橋付近の弁天様、トイレ

あります。

担当：井上、佐久間、小池（一）、小池（順）、堀口、大澤、鶴飼、岡田

見どころ：荒川沿いを下流に向かうコースです。冬鳥はもちろん、長瀨の景観も楽しみながら河原を歩きましょう。防寒対策と履きなれた靴でお出かけください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月26日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園第一駐車場。
交通：東武伊勢崎線羽生駅東口から、8:05 発 羽生市営バス（ムジナもん号）で、「羽生水郷公園・キャッセ羽生」下車。

担当：中里、新井（巖）、栗原、植平、飛田、竹山、相原（修）、相原（友）

見どころ：厳しい寒さの中、真白き日光連山を背景にタカが飛びます。静かな公園のアシ原では鳥たちの気配が感じられ、池ではカモが出迎えてくれます。

ご注意：帰路バスは上記バス停から 14:51 発。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：1月28日（土）～1月29日（日）

先月号でお知らせしました。

茨城県・菅生沼探鳥会

期日：1月29日（日）

集合：午前8時50分、東武野田線野田市駅前。または午前9時40分茨城自然博物館出口ゲート前。

交通：東武野田線大宮 8:02→春日部 8:25→野田市 8:46 着。集合後茨城急行バス岩井車庫行き 8:55 発で、「自然博物館入口」下車。徒歩約15分。バス料金片道410円。
費用：入館料200円（団体割引100円）、70歳上は無料。本館には別に入館料520円。

解散：現地にて午後1時ころ。

担当：入山、石川、植平、佐野、佐藤

見どころ：自然博物館の野外施設を中心にツグミなどの冬鳥を探します。去年はルリビタキをじっくりと観察できました。



行事報告

10月2日(日) 北本市 石戸宿

参加：60名 天気：曇

カワウ アオサギ カルガモ コガモ トビ チョウゲンボウ コジュケイ クイナ バン キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス エゾビタキ コサメビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 荒川河川敷、桜堤の桜の天辺に小鳥の姿。望遠鏡に入れたらエゾビタキ。全員がじっくり観察できた。ようやく飛び立ったと思ったら、すぐそばから別の鳥も飛び立ち、これもエゾビタキだった。そこに、更に飛んで来た2羽もエゾビタキ。4羽(あるいは5羽)もいたのにはびっくり。(吉原俊雄)

10月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加：44名 天気：晴

カワウ カルガモ トビ オオタカ ノスリ サシバ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス ハシボソガラス (24種) (番外：ドバト) 「ツグミ科のヒタキとヒタキ科のヒタキ」というテーマを掲げての探鳥会だったが、鳥の出が悪く、ヒタキとの出会いもなし。ヒヨドリが飛びながら「イ～ヨ、イ～ヨ」と慰めてくれた。(榎本秀和)

10月22～23日(土～日) 長野県 戸隠高原

参加：26名 天気：両日とも曇時々雨

ハイタカ トビ キジ キジバト アオバト アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ビンズイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ マミチャジナイ ウグイス ウグイス科不明種 キクイタダキ ムギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ イカル スズメ カケス ハシ

ブトガラス (35種) 長野駅からのバス移動時に雨が降り出したが傘をさすほどではなかった。みどり池には常連のカイツブリはいなかったが、カラ類の混群に出会い、その中にお目当てのムギマキが見つかった。全員ではないが、とりあえず見ることができて安心。トイレ付近でオオアカゲラ、アカゲラ、ゴジュウカラ、また1羽だけマミチャジナイも確認できた。アトリの大群が上空を舞い、それを追いかけるハイタカも見られた。その後、ムギマキはほぼ全員が見られた。夜は近くの温泉。夕食はそばも堪能できた。翌日は朝食前に宿周辺の探鳥。紅葉は綺麗だが鳥はいまいちであった。朝食後は植物園での探鳥。キバシリはじっくり観察できたが、ツグミ類は声さえも聞こえず、場所を移動しても見つからなかった。イカルの群れを見つけて今回のフィナーレ。(菱沼一充)

10月23日(日) 川越市 西川越

参加：30名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ チョウゲンボウ バン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 前日からの雨も上がった。今月も暖かいせいかわ鳥が少ない。でも池ではカモ、モズ、川ではシギ、サギ等を見ながら川に沿って下った。鉄橋からチョウゲンボウのペアが交互に下の草原に降りて、バツァ?をとっては鉄橋で食べるのを見てから帰路に。(佐久間博文)

10月30日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加：41名 天気：曇時々晴

アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ コジュケイ バン イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外：ドバト) 当日朝のNHKラジオで、日本野鳥の会の安西英明さんが、日本でのジョウビタキ繁殖の話をしていたので皆さんに紹介し、スタート。メジロ、シジュウカラの混群を

見た後、イカルチドリが、埋立地の砂利に5羽。河原と間違えたのではとの声もあり、勿論当探鳥会では初出現。お目当てのジョウビタキは、例年と同じ浅間神社の森を抜けたところで待っていてくれ、全員がじっくりと見る事ができた。古墳の池にはカモの姿がなく、さびしい限り。長引いている整備工事のせいか。26種と少ない出現だったが、お目当てが出てくれて一安心。(内藤義雄)

11月6日(日) 上尾市 丸山公園

参加：27名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ オオタカ ハイタカ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 集合場所でエナガ、メジロなどの混群を見て、出だしが良いと公園の中へ。電線にオナガがいてカケスが飛んだが、その後鳥影はなく心細くなってきた。ところが滝の池でカワセミ♂をゲットすると気が楽になった。この日はコースを変更し、大池の南端を通りグラウンドを抜け百日草のお花畑から土手に。オオタカとハイタカのモビングが見られ歓声上がる。河川敷ではモズ、ジョウビタキ♂♀が確認できた。期待したツグミが出ないと思いきや、シメが出て大満足。(大坂幸男)

11月10日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加：40名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ ハヤブサ キジ クイナ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外：ドバト) 心配した天気も回復に向かってくれた。まずは宝蔵寺沼に出るとオオバンが盛んに潜って水草を食べていた。三田ヶ谷池では、先週まではまだエクリプスだったヨシガモが

見事なナポレオンハットを見せてくれた。ここ数年、毎年その数が増えている。アシ原では、タカ類が数多く飛んで皆を楽しませてくれた。最後にキジが出て締めくくった。(中里裕一)

11月12日(土) さいたま市 秋ヶ瀬公園自然観察会

参加：15名 天気：快晴

カワウ カルガモ ハシビロガモ キジバト コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ ハシボソガラス ハシブトガラス (14種) (番外：ガビチョウ)

「野鳥の会の鳥類観察記録は生息環境の記載が無い環境との関連性が把握できない」という批判がある。これを是正するため、植生区分(現存植生)の簡単な表記法を含め「マイフィールド・データの記録法、まとめ方、発表法」をテーマとした。森林では(優先高木種名) - (低木種名) - (林床植物の種名) 林 (mH: 林冠高)。例：クスギ-ゴマギ林 (10mH)。乾燥草原では(高茎草本種名) 草原。例：ススキ草原。湿原では(優占木本または草本種名) 湿原。例：ハンノキ-ヨシ湿原。ピクニックの森で上述の表記法を実習。樹は葉を拾い、葉が示された樹木図鑑で確認するなど、実際的な調べ方も。学んだノウハウで、まずは『しらこぼと』への発表を！ (小荷田行男)

11月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：42名 天気：晴後曇

カイツブリ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 暖かい日が続く、冬鳥の到着が遅れているようだ。「ツグミもシメもまだ見ていない」という参加者が大半。アオジ、キジ、モズなどを観察しながらのんびりと河原に向かう。河原ではノスリ、イソシギ、カワセミなどが見られた。少し戻って野鳥の森に。入口でカシラダカの群れに出会ったが、その後はヒヨドリばかり。しかし終点の池できれいなジョウビタキ♂が出迎えてくれて、やっと初冬の探鳥会らしくなった。(新井 巖)



●ホームページの「探鳥会案内」書き直し

当会ホームページの「探鳥会案内」は、従来本部のホームページ「全国支部の定例探鳥会」にリンクするだけの少々手抜き状態であったことを反省し、少し丁寧な形に書き直しました。

定例探鳥会の「集合時間：場所：交通」を『しらこぼと』と同じにしました。さらに、実際に開催された定例探鳥会の春・夏・秋・冬、それぞれの例を選び、出現した鳥全種と、担当者の報告を掲載しました。これにより、どの季節にどんな鳥に出会えそうか、ある程度はわかっていただけではないかと思えます。

なお、すべての探鳥会をホームページ上で掲載するかどうかは、その方法も含めて、役員会で議論を進めています。今のところ、「定例探鳥会は探鳥会の一部です。すべての探鳥会の情報を知るためには、ぜひ日本野鳥の会埼玉にご入会ください」と呼びかけています。

●鳥インフルエンザご心配なく

本部から配信されている『支部ネット通信(メール版)2011年12月臨時号No.109』によれば、島根県松江市で11月7日に死体で見つかったコハクチョウ1羽の鳥インフルエンザウイルスは、環境省の検査により、強い病原性を持たないとされている H5N2 亜型であることが既に判明していましたが、実際の病原性の有無を確認するため、引き続きニワトリへの接種試験が行われた結果、強い病原性はなかったと追加発表されました。

なお、環境省は、ガンカモ類の糞にウイル

スが含まれていないかどうかを各地で調べた検査の結果も、11月29日に公表しました(10月分)。38都道府県42市区町で採取された2,524個の検体について、高病原性鳥インフルエンザウイルスはすべて陰性とのことでした。

●会員数は

12月1日現在1,952人。

活動と予定

●11月の活動

11月12日(土) 11月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

11月16日(水) 見沼たんぼネットワーク会議に出席(10月27日も、藤掛保司)。

11月20日(日) 役員会(司会：石川敏男、各部の報告・行事予定の一部変更など)。

11月21日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け12月号を発送(海老原美夫)。

●1月の予定

1月7日(土) 編集部・普及部・研究部会。

1月14日(土) 2月号校正(午後4時から)。

1月15日(日) 役員会(午後4時から)。

1月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

とくにその年代は過ぎているのに突然の50肩。パソコンを打つ姿勢もとれない。ほとんど同時に、家人は足を捻挫し歩行もままならない状態。家の雑事を2人で1人分のこともできない。自分としては、肩が治っても「まだ腕が上がらない」と言い訳をして、上膳据膳を目論んでいたのに……。(山部)

しらこぼと 2012年1月号(第333号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社